



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

イラン：核問題に関するイラン大統領などの発言

(16日付 ISNA 通信ほか)

イランの核問題に関して、16日付現地報道は、以下の通り報じている。

1. アフマディーネジャード大統領発言

(16日のチャハールマハール・バフティヤーン州市民を前にした演説；ISNA 通信)

- (1) 彼ら（西側諸国）自身が、この行動（安保理決議採択）に価値が無いことを知っている。米大統領は、他の諸国の首脳に連絡をとり、「どうかこの決議に投票して下さい。我々は問題を有しており、イランに対して行動しなければならないのです」と述べて、票を集めた。米大統領は、シオニストたちや他の犯罪者の前で面目を守るために、対イラン決議を発出するしかなかった。
- (2) 彼らは、我々と新たな雰囲気において対話を行なう必要があり、イラン（との対話）以外に道はない。しかし、彼らは対話しなければならないと分かっているにもかかわらず、傲慢な内面を露呈した。彼らは、まず最初に制裁を発出し、イランに圧力をかけ、対話において有利に立とうと考えているようである。イラン国民は、対話を好み、何度も彼らと対話を行なうことを表明してきた。しかし彼らは、対話の条件が以前と変化したことを知るべきである。
- (3) 以前、対話は尊敬と公正に基づくべきであると述べた。しかし彼らは制裁決議を発出し、その直後に対話を実施すべきであると言った。我々は対話を好む。しかし、条件（複数）がある。これらについては近く発表されるであろう。

2. ラーリージャーニー国会議長発言

(16日の国会審議開始前のスピーチ；現地ニュース・サイト「アスレ・イーラーン」他)

- (1) EU および米国議会は、制裁決議の発出後、さらなる措置を進めようとしている。安保理の冒険主義的な動きのサークルを完成させるため、イランに対してさらなる措置を準備してきた。
- (2) これらの諸国が NPT に従わず、テヘラン研究用原子炉（TRR）に必要な燃料を供給しないことに鑑み、国会は政府に対し、濃縮（ウラン）製造の基盤を 20%レベルに置き、ここから揺らぐことがないよう要請する。

©本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799